

田原小だより



第691号
令和5年2月28日
台東区立田原小学校
校長 佐藤 貴生



エンジンを鍛えよう！

副校長 地平 憲司

左は、本校の玄関で子供たちを毎朝出迎えている「電光掲示ボード」です。2月は、18日に行われた「持久走大会」に向けてのメッセージでした。これは、私が研修で学んだことですが、「人間の心肺機能も体の成長と同じで、成長期を過ぎると劇的な機能向上はなく、加齢とともに徐々に後退していく。心肺機能（心臓）を車のエンジンに例えるなら、3000ccと600ccでは、馬力、つまり生きる力が違ってくる。」というものでした。随分、昔の研修でもあり、医学的なエビデンスはともかく、感覚的には正しいように思います。また、今はあまり耳にしなくなりましたが、私が子供の頃には、寒空での「乾布摩擦」なども盛んに行われていたように思います。子供心に「乾

布」を「寒風」と誤解（誤聞）していたように記憶していますが、これも、「寒さに負けない体づくり」を目的とした「先人の知恵」の一つで、免疫力を高めるという点では理にかなったものだったのかも知れません。

さて、「持久走大会」に向けて、どの学年も休み時間を使い、「嵐 Happiness 走りだせ～走りだせ～・・・」の歌詞に乗って、元気に走っていました。そして、大会当日は、快晴の中、スカイツリーを横目に颯爽と翔る子供たちの姿からは、短期間でも鍛えたエンジンの鼓動が聞こえてくるようでした。

22日には、6年生による「謝恩会」も開かれました。62名の子供たちの「成長の軌跡」をみんなで振り返りながら、感慨深いひと時を過ごさせていただきました。お家の方に手作りのコースターを手渡す子供たちは、皆照れくさそうな表情をしていました。でも、そこには確かな「感謝」と「親子の絆」が見られました。小学校を卒業し、「思春期のトンネル」に入っていく前のまだ「幼さやあどけなさ」が残る表情は、親にとってはかけがえのない「宝物」です。そして、子供たちには、今まで大切に育ててくれたお家の方への素直な気持ちをしっかりと胸の内にしまっておいてほしいと願っています。

3月（去る月）は、卒業式・修了式に向かって、時が加速していきます。そして、6年生だけでなくどの学年の児童にとっても次年度への期待と不安が募る1か月でもあります。佐藤校長先生が3学期の始業式で述べられた「3学期は、次へのステップを見据えた0学期！」という言葉は今一度噛みしめながら、最後までしっかりと歩んでほしいと思います。そんな子供たちを教職員一同全力で指導・支援してまいります。

新しい学年への準備をしよう

生活指導部 高橋 浩之

2月の生活指導月目標は、「寒さに負けない体を作ろう」でした。持久走大会では一人ひとりが全力を出し切ろうとする姿が見られました。日頃から努力した成果が表れ、記録が伸びたり、順位が以前よりも良くなったりと努力することの大切さに気付いた子供たちもたくさんいたことと思います。

3月の生活指導目標は、「新しい学年に向けての準備をしよう」です。1年間の自分の成長を振り返りながら、新しい学年に向けての準備をしてほしいです。そのためにも、1年間使った教室や机をきれいにしたり、持ち物の整理整頓をしたりすることが大切です。子供たちが気持ちも新たに次の学年に進めるよう各学級でしっかり声をかけていきたいと思います。ご家庭でのお声掛けもよろしくお願ひします。